

◆◆◆ 魚沼市まちづくり委員会・魚沼市コミュニティ協議会連絡協議会 ◆◆◆

合同視察研修会 に参加しました

佐梨地区コミュニティ協議会 健康福祉部会長
岸本達行

11月17・18日の両日、コミュニティ活動で先進的な実績をあげている愛知県高浜市への合同視察研修会（29名参加）に行ってきました。

高浜市は「市民は市の共同経営者である」という『協働自治』の観点から、市民と行政で共通のまちづくりを進めています。地域内分権の推進で、小学校区を単位とする『まちづくり協議会（まち協）』が推進役を担っていて、これが私たちのコミュニティ協議会にあたります。

『高浜南部まちづくり協議会』では町内会、あやじの会、PTAなどが横のつながりをもち、『チャレンジ支援グループ』で障がい者の活動支援、『防災・防犯グループ』で地域パトロールの実施、『公園管理グループ』では荒れた公園の整備・管理などを実施しています。

まち協の方からは、「市民と行政が、一緒に計画の実行と点検・確認を進めているので効果が大きい」、「市民がアイディアを出していることで、行政では見落としがちな視点を取り入れ、市民にとってより望ましい事業を展開している」また、「地域のまちづくりに、積極的に関わろうという意識をもった市民が増えている」と、活動の成果について聞くことができました。

◇ 市民と行政が「協働」して活動していることに強い感銘を受けました！

- ・高浜市 神谷美百合福祉部長、「福祉といつても特別なことをしている訳ではない。

普段のつながりを強めること！市民が自分たちで考えたことを提言し、行政は足りないところを補うだけ」という言葉に象徴されていると感じました。

・「大きいことは何一つやっていない。今ある活動を活かして活動しているだけ。」と言われます。謙遜でしょうが、大事なことだと思います。他のグループの活動でも、応援してくれる市民が大勢参加されていることもうなづけます。

◇ まちづくりの目指す姿、『思いやり支えあい 手と手をつなぐ 大家族たかはま』というキャッチフレーズには、温かさを感じました。

- ・市民同士といえども他人であることから、忘れ去られがちな『絆』を言い表しています。佐梨地区コミ協もかくあります。

◇ まち協の活動拠点が充実していました！

- ・高浜市の5つのまち協は、それぞれに活動拠点を持っています。私たちが視察に訪れた高浜南部まち協は、「高浜市南部ふれあいプラザ」を拠点に「高齢者・子ども・障がい者など地域の皆さま方のふれあいの場であり、地域共生を育む施設」として日々活動しています。1階には、障がい者の自立支援のための店舗“パン工房とカフェ&ベーカリー ふるふる”、2階には、子供からお年寄りまで誰でも自由に利用できるコミュニティースペースと談話室が設けてあり、毎日活用されているそうです。



参加者の感想

編集後記



”魚沼のまちづくり”に寄せて

広島経済大学 教授 川村健一

明日から10回目のカンボジアへ向かう夜、魚沼市のまちづくりの原稿に以下の話をしようと決めました。

大学の教師として学生に大事にするように言い続けているのは、“感謝と責任”という考え方です。今、安心して魚沼で生活を送るのは、このまちをつくり続けてくれた祖先のおかげです。いまを魚沼に生きる人には次の世代の為に、なにをしなければならないか、皆で考えて実行する責任があります。

この考えを学生に話してから5年が経過し、今行われているカンボジアでの学生達のボランティア活動が、広島で感謝の気持ちを持って生活を営むエネルギーになっているように感じます。

今、カンボジアで広島の復興をテーマに日本の学生が副読本づくりをすすめています。

カンボジアで最も有名な世界遺産のアンコールワットへの入り口の町シェムリアップからバスで約1時間、カンボジアのササツダム小学校を、学生たちと訪ねたのは2008年の9月でした。

電気も何もない教室で元気に先生に向かい、学校横の畑に貯まった泥水をプールと言って元気に遊ぶ子供たちが、笑顔を失わず、自分たちで将来のビジョンを描き、ポルポト時代の内乱で傷んだまちを、国を再興するはどうしたらいいのか。未来を期待することのできない子供たちに対して、「自分たちにできることは？」と考えた学生たちが帰途に出した答は、原爆が落とされてから今日までの広島の復興プロセスを、クメール語の副読本にすることでした。

その後、学生たちは何度もカンボジアを訪れ、2百人余の子どもたち一人一人の夢に耳を傾け、副読本の内容を詰めていきました。

内容を詰める過程では、カンボジアにある3つの大学との討論も重ねました。学生たちも積極的で、首都プノンペンの裕福な家庭に育った学生も、田舎に育ち苦学して入ってきた学生も、僧侶になり寺から大学に来ている学生も、それぞれに協力してくれました。

一番積極的に参加してくれたのは、1年後、教師として小学校に赴任する教員養成学校の学生でした。この副読本を持ってゆくと、自分の生徒へ伝えたい思いを副読本に織り込んでくれました。

完成した副読本は、日本語版、クメール語版共に200ページの立派な本となり、2011年3月の時点でカンボジアの2小学校、教員養成学校、日本語学校、親のいない子供たちの学校を運営するNPOで授業に使われております。



川村健一氏は、魚沼市まちづくり委員会のアドバイザーで、今回1月の市民会議でもアドバイザーを務めていただきました。



川村健一

考える「大人の子育て・子どもの子育ち」



1月26日小出郷文化会館にて市民会議を開催いたしました。

記念講演として、「NHKすくすく子育て」などに出演されている、汐見稔幸氏より講演していただき、その後パネルディスカッションを行いました。

ご講演下さった汐見氏のお話によりますと、ここ近年の制度などは、「まず国の少子化対策としてエンゼルプランができたが、保育所への要望・負担が多いプランだった。結果、出生率は上がらず、虐待・ひきこもりの問題も増えた。その後、新エンゼルプランは専業主婦の家庭応援や父親の育児参加など、子育て中の親を支援するプラントとなつた。そして、平成27年度からは、「子ども・子育て支援制度」がスタートする予定となっており、子ども子育て関係の予算を増やすとともに、流れを一本化して自治体が責任を持つ。小規模保育や家庭的保育なども認可して補助金を出す。という2本の柱があり、財源は消費税である。」というものでした。

また、「『ひきこもり』はあまり海外ではなく、日本では100万人近いといわれている。今、台湾、韓国・中国など儒教がベースにある国には出てきている。しかし欧米諸国ではなく、何でそんなことができるのか不思議に思われる。日本は子どもに優しく、家から追い出すようなことはせず、どうやったら守ってあげるかという考え方がある。

社会に適応できない。これは自分に対する自信がない、自尊感情が低いということで、何かあった時に弱いという、メンタルヘルス上の問題がある。日本の若者は他国に比べると自尊感情が低く、自分をありのままの自分で良いと思えず、一方、自尊感情が高いと自分が好きで肯定できる。弱点をさらけ出しても平気な子どもになれる。子どもの時にありのままの自分で良いと認めてもらうことが大切であり、子どもの行動は叱ってもよいが、性格は叱らないこと。小さな子どもの欲求にこたえてあげること。ほめまくったり、叱りまくったりせず、見守り共感する子育てが大切である。

心の育ちということで、今、ゲームなどにより子どもの体力が低下し、運動能力にも変化があり、自立神経の働きも低下している。自然の中で遊ばなくなり、生活スタイルも体を使わなくなっている。子どもの時の自然体験が多いと道徳感情が高くお手伝いなどの生活習慣も向上する。」などということをお話くださいました。

後半のパネルディスカッションは、アドバイザーの川村先生をコーデネーターに、子育て中の父母・祖母・元保育士の4名の方から、それぞれの立場から悩みや現状を話してもらいました。

母親の立場から、病気の子どもを預けるところがなかなかみつかなくて、仕事との両立が大変だった。父親の立場から、地域のボランティアをしていると父親の参加が少ない等、問題点が見えてくる。祖母の立場から、子守を始めた頃は、泣いてばかり、眠ってばかりで大変だった孫だが、続けての日々の感動や発見の数々。保育士の立場からは、子どもの成長に合わせた集団の大きさの大切さなど。

来場者全員に渡されたパネルを利用して、司会者の質問に全員参加で返答しました。来場者も参加した活気のある会場でした。

汐見氏からは、ご自身の話を交えながら、子育てで子どもより豊かなものをもらう、家庭的保育をひろげてもらいたい、育児により親が人間として成長できるなどの感想をもらいました。

汐見氏からの今後のアドバイスは、

- ・子育ちの支援を重視していこう
- ・地域型保育給付を最大限利用しよう
- ・地域に三世代が集う場をつくろう
(子ども・年寄り・障害者、富山方式みたいに)
- ・どの子にも3つの出会いを(自然・文化・職人)
- ・イタリアキャンティに学ぼう(チッタスロー=スローシティ)

というものでした。

最後に、市長からお話をいただき閉会しました。

充実した内容の市民会議でした。



アンケートの結果

■汐見先生の講演の感想

- ・なるほどと共感できる内容ばかりで、とても勉強になりました。(小出 20代 女性)
- ・よいお話をありがとうございました。自尊感情を育てるには、自己肯定感を育てるには、ほめることが大事と聞くことが多く、意識してほめることが多かったがそれは子どもにとってゴチャゴチャとうさいだけで自分を出せない話をきき、ただ静かに見守ることの大変さ、改めて感じることができよかったです。(堀之内 30代 女性)
- ・わかりやすく、理解が深まりました。(堀之内 40代 男性)
- ・お話の最後の方が特に良かったです。本当に「そのとおり」と思える内容でした。エンゼルプランの作られた時代には、子どもも目線立場でのものを言うと「そんなこと言う保育士は古い」というかんじの時代でしたがやっと大事なことを言ってくれた内容を感じました。(湯之谷 40代)
- ・地域での子育ての大切さが必要と思いました。(入広瀬 60代 男性)
- ・子育て子育ちのむずかしい時代だと言われますが、子育ちの困難性はどこにあるのか、問題の本質はどこにあるのか、たいへんよくわかってためになるお話をでした。(小出 70代 男性)



■パネルディスカッションの感想・意見

- ・母親、父親、祖母、保育士の様々な観点からお話をきけてよかったです。みんなで協力して、楽しんでいけたら素晴らしいです。(小出 20代 女性)
- ・一人一台ゲームがある時代ですが、子どもと親がある物と一緒に遊ぶことが大事だと思います。子育てを通して、親も育つ必要があります。(広神 30代 男性)
- ・魚沼にはこんなに素敵な人がいっぱいいるんだなと嬉しくなりました。これからすべきことがいっぱいあるなと感じた。(湯之谷 50代)
- ・小岩さんが面白かった。田舎のばあちゃんの代表だね!
- ・魚沼市への具体的要望がもっとあってもよかったです。(広神 70代)



■全体を通しての感想・意見

- ・魚沼市にいいところをたくさん取り入れてがんばってもらいたいです。育児休暇が短いと思います。(湯之谷 30代 女性)
- ・講演もすばらしい内容でした。パネルディスカッションでは今の現状を考えることができます。聞く側も参加した気持ちになりました。ありがとうございました。(小出 40代 女性)
- ・子育ての答えは一つでない事、今更ながら実感しています。(小出 50代)
- ・都会に比べれば子育てしやすいと思います。しかし独身者が多く、仕事の関係で若者が定住しにくい等により少子化であることが問題です。親が余裕をもって子供に向き合える環境を整える必要があると思います。社会的弱者・少数者の立場に立った教育・啓発が大切だと思います。(入広瀬 50代 男性)



地域産業振興部会では「食のモニター制度」の試食会を9月に小出郷福祉センターで開催しました。

今回は試験的に行った為、あらかじめお願いした4社の商品「美雪ます寿司」「缶詰けんちん汁」「なめこ柚酢っこ」「ちび辛きゅうり」で行いました。

モニターは、まちづくり委員会の希望者30名で4グループに分かれ「試食、ディスカッション、アンケート記入」の流れで各社20分づつ周り、活発な意見交換になりました。



<http://machidukuri-uonuma.com/>



次回の開催ではアンケートに一番多かったスイーツで考えていくので、試食してもらいたい企業(お店)の方やモニターで一般の皆さんからも参加できるように計画中です。詳しい試食会の様子やアンケート結果、今後の予定などは「まちづくり委員会」ホームページに掲載していますのでチェックしてみてください。